

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【長野県】

学校名【松本市立奈川小中学校】

1 実践テーマ	①・II・③・④⑤（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	奈川小学校 全校 (17名) 小2年生 6名 3年生 1名 4年生 3名 5年生 3名 6年生 4名 奈川中学校 全校 (5名) 中1年生 3名 2年生 1名 3年生 1名 奈川公民館の方 5名 地域の方 10名 計37名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育 道徳 総合的な学習の時間) ② 行事名 (人権講演会) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 (パラバドミントン体験会) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	「パラスポーツでつながって、パラリンピックを応援しよう!!」 実践の三本柱 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;">バリアフリーや共生社会への関心を高める</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;">パラリンピックへの興味・関心を高める</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;">スポーツが人生を豊かにすることを学ぶ</div>
5 取組内容	1 オリンピック・パラリンピック掲示板の開設 玄関前の生徒会掲示板をオリンピック・パラリンピック掲示板として、主にパラリンピック関係のものを掲示した。 6月～10月は、令和元年度の取り組みの写真を飾って振り返ると共に、パラリンピックの基本知識や、オリンピック・パラリンピックに関する新聞記事やポスター、パラリンピックのクイズ等も掲示した。11月以降は、今年度の取り組みを振り返るように模様替えをしている(写真1、2)。



写真1 (6月～、2 (11月～) オリンピック・パラリンピック掲示板

登下校時によく見ている姿があり、パラリンピックの知識は、皆覚えていたようだった。掲示板を使った体験の振り返りもできた。

## 2 人権学習参観日でのパラリンピック学習

毎年 11 月に行われる人権教育月間中の参観日は人権教育に関する授業を各学年で計画しているが、令和 2 年度は小中全校で、パラリンピック学習を行うことにした。教師は積極的に教材 (I' m POSSIBLE) を開き、自分たちの学年では、どんなことができるか教材研究し、授業を行った (写真 3、4、資料 1)。

### 資料 1 人権教育参観日の各学年の授業内容

学年	教科	単元名・題材名	内容・ねらい	教材 (「I' m POSSIBLE より)
小2 小3 小4	道徳	パラリンピックについて知ろう	パラリンピックの意義や歴史、競技者を支える工夫などについて、映像やクイズを通して学び、パラリンピックに関心をもつ。	「パラリンピックって何だろう？」
小5		パラリンピアン香西選手ってどんな人だろう？	香西選手のパラリンピアンとしての活躍やそこに至るまでの日々の様子を通して、「勇気」「強い意志」について理解し、「自分ごと」として考えるきっかけをつくる。	「パラリンピアン香西選手ってどんな人だろう？」
小6		もしパラリンピアンが学校に来たら	車いすのパラリンピアンを学校に迎えることにより車いすを使用する人にとっての生活場面でのバリアを探し出したり、解決の手立てを考えたりする。	「パラリンピアンが学校に来たら」
中学校		知ることから見えること (4時間抜きの1時)	・「パラリンピック」が大切になっていること ・「公平」と「平等」サポートする人、サポートがあるからこそ姿	「パラリンピックって何だろう」 「パラリンピックスポーツについて学ぼう」(導入) ・リオ 2016 パラリンピック

				大会ダイジェスト ・平昌 2018 冬季大会時作成 教育ビデオ 『パラリンピックの価値』
--	--	--	--	---

※小2～小4は、同じ教材で発達段階に合わせて各学年でねらいを決めての授業。

※中学校は3学年合同での授業。



写真34 授業の様子

この授業を、参観日として公開したことで、保護者の方・地域の方も一緒に学習してくださり、その後の体験会に積極的に参加していただいた方もいた。

### 3 パラリンピックメッセンジャー田口さんとの学習

中学校で構想した題材「知ることから見えること」は、パラリンピックやパラスポーツについて学びを深めるとともに、「パラスポーツやパラリンピックを支える人」についてスポットを当てたいと構想されていた。そこで、昨年度ボッチャのサポーターとしてお世話になった田口真紀さんに再び連絡を取り、ボッチャのサポーターとして活動する中での思いを中学生に話す機会をつくっていただいた。日本財団パラリンピックサポートセンターの教育プログラム「あすチャレ！」のメッセンジャーの資格を取った田口さんは、中学生に向けて、田口さん自身が、ボッチャと関わり、障がいのある人のサポートをすることによって自分を変えることができたこと、障がいのある人の中には、今まで家に閉じこもりきりだった人が、ボッチャとの出会いによって、どんどん外に出ていけるようになった人もいたことを話して下さった。そして、「ボッチャは『障がい者でもできるスポーツ』ではなく、『健常者でもできるスポーツ』という生徒にとって印象深い言葉をいただいた。(写真5) (資料2)



写真5 授業の様子

#### 資料2 田口さんとの学習での生徒の感想

- ・人をサポートするのは絶対に無理だと思っていたけど、田口さんのお話をきいてサポートするのも楽しそうだった。私は今(総合的な学習で)手話をやっているの、それを生かしてサポートできればいいなと思った。
- ・今日の「ボッチャ」は「健常者でもできるスポーツ」ということをお聞きし、「確かに!!」と思ったのと同時に他のスポーツ等も「障がい者でも・・・」から「健常者でも・・・」と変わるものが増えれば、やさしい社会になるかもしれないと思った。
- ・ボッチャの経験をすることにより、こんなにも自分が変わるのかと驚いた。

- ・ボッチャのおかげで外に行くようになった話を聞いて、その人の人生がもっと楽しくなってよかったと思った。
- ・私も何か自分にできることや挑戦できるものを見つけて、それに向かって努力できるようになりたい。

また、小学校でも田口さんが来校して下さる機会を利用して、今、小学校で取り組んでいるボッチャをより楽しくできるようにアドバイスを受けた。小学生全員とボッチャを行った田口さんは、ランプ（スロープ）を使ったボッチャを教えて下さり、子どもたちも夢中で取り組んだ。小学生にとっては、いつもやっているボッチャのまた違う面を見つけることができ、ボッチャの奥深い学びと楽しさを感じた時間になった（写真6、7）。



写真6、7 ランプやスロープを使った体験

#### 4 パラバドミントン体験会

今年度の体験会は、子どもたちが日常的に親しんでいるスポーツのparasportsを体験し、思いを深めてほしいと考えた。そこで、奈川地区で、社会体育や部活動で多くの子どもが取り組んでいるバドミントンに着目し、パラバドミントンの体験会ができないか考えた。日本障がい者バドミントン連盟に相談をすると、パラバドミントンは、東京パラリンピックから新しく正式種目になったparasportsで、その普及にも力を入れているので、是非実現させたいとのことだった。11月は、強化選手は大会のための合宿に入ってしまうということだったが、世界大会で3位入賞を果たしたこともある選手を派遣して下さるということで、地域で初めてのパラバドミントン体験会が奈川小中学校で開かれることになった。何度も事務局とメールのやり取りをし、新型コロナウイルス感染拡大の対策を準備しながら、ボッチャの時と同じように地域の方々にちらしを配った。地域の方も多く来てくださり、11月16日に体験会が開かれた。

世界大会3位の実績を持つパラバドミントン選手、島田務さんは、まず、パラバドミントンの「車いす」と「立位の2つのカテゴリー、障がいの種類や程度により6つのクラスに分かれることを教えて下さり（写真8）、障がいのある人にとっても、スポーツを存分に楽しむためのルールの工夫があることを学習することができた。



写真8 パネルを使って講演する島田さん

その後、車いすを使用する島田さんが自身の経験として「障がいをもってしまった時には、とても落ちこんだが、車いすの生活を楽しもう、と思い車いすでのスポーツを始め、いろいろなスポーツを行った後、現在はパラバドミントンを行っている」と話して下さった。この『「車いすの生活を楽しもう」とスポーツを始めた』というお話が、子どもたちに今までの体験や学習を想起させた。

体験会では、パラバドミントン用の車いすでのレースを行い（写真9、10）、車いすに慣れると、全員がラケットを持ち、小中関係なくペアを組んで、島田さんと対戦した。立位では自信を持って島田





写真9、10 車いすシャトル

さんが打つシャトルを強く打ち返していたが、車いすののって対戦すると、車いすの操作と、シャトルを打ち返すことを同時に、または臨機応変に行うことがとても難しそうだった。「難しい」とつぶやきながらも、楽しく体験することができた(写真10~12)。



写真10~12 体験の様子

胸から下を動かすことができず、腹筋や背筋を使うことができない島田さんが、大きく体を反らしてシャトルを打ち返したり、車いすを自由自在に操ってシャトルを追いかけたりする姿に児童・生徒はすっかり魅了された。その努力の深さや尊さを、島田さんの姿から自然に感じ取っていた。子どもたちは、正式なルールに近いやり方で、実際に自分の力も出しながら体験したことで、パラバドミントンの楽しさ、難しさ、面白さを体感することができた。また、島田さんの送迎を担当し、島田さんをサポートしていた事務局の細矢幸子さんにも、「細矢さんは、島田さんが車いすでシャトルを踏んでしまわないように、素早くシャトルを拾っていた」と、サポートの大切さに気付いた子どももいた。終わった後、島田さんを尊敬する言葉や、「楽しかった」「またやりたい」という声が続いた。

また、保護者・地域の方も、積極的に参加して下さり、自分たちで車いす体験等も行ってくださいました。

体験会の振り返りからも体験会が子どもたちにとって意義のあるものだったことがわかる(資料3)。

### 資料3 パラバドミントン体験会の振り返り

- ・下半身が使えない中、上半身だけでコントロールすることがとても難しいということが少し分かった気がします。
- ・パラスポーツにバドミントンがあることにびっくりしました。どうやって車いすを動かしながらラケットをふるのかとても疑問に思いました。島田さんの動き方や上半身を曲げて打つ時がとてもカッコいいと思いました。どうしたらあんなにシャトルが当たるのだろうかとたくさんの驚きがありました。
- ・私は初めてパラバドミントンを見てすごいなと思ったことがあります。それは「あきらめない」ということです。下半身が動か

	<p>ないということを知ってつらかったと思いますが、それを受け入れ、スポーツを行うということがすごいなと思いました。車いすに乗りながらバドミントンをしている島田さんはとてもかっこよかったです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回のパラバドミントンでパラスポーツに興味をもつことができました。パラリンピックに出場する方をこれからも応援していきたいです。</li> </ul>
<p>6 主な成果</p>	<p>本年度はコロナ禍の中でどのくらいのことのできるか心配だったが、掲示板の設置や、道徳で継続して扱ったこと（中学校）により、児童・生徒の意識を持続させることができ、年間を通して、オリンピック・パラリンピックへの興味を失わずに活動することができ、11月の人権教育月間での取り組みでさらに関心を高めることができた。</p> <p>昨年から、複数のパラアスリートやサポーターに来校していただき、それぞれの方の経験、生き方、スポーツ観をお聴きしながら体験を重ねたことで、インクルーシブな社会に思いを持つこととともに、「スポーツに取り組むことの素晴らしさ」を感じ取り、生き方を学んでくれた。どのパラアスリートの方も、スポーツに取り組むことが、生きる上での支えや生きがいになることを力のある言葉とともに、パフォーマンスで見せて下さった。また、奈川小中学校では、児童・生徒全員がそれぞれの競技をパラアスリートの方と一緒に体験したことで、自分事として捉えることができ、将来の苦しいことや辛いことにも打ち勝つことができる夢や希望を得ることができたのではないかと考えている。</p> <p>6月時点でのアンケートで「パラリンピックに興味がある」と答えた児童・生徒は全体の約57%だったが、1月にとったアンケートでは、約80%になっている。また、パラスポーツの体験を通して社会貢献をしたい、お年寄りや障害のある人と交流したいと考えた児童・生徒が、42%から85%になった。</p>
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>本校は小規模校であり、その小規模校のよさを生かし、全員が体験し、体験したことをもとに学習できるようにしていることが大きな強みである。また、地域に呼びかけて、地域の方と一緒に体験する形を取っている。今回コロナ禍で、多くの方が参集することはできなかったが、パラバドミントン体験では、地域の全世帯にちらしを配り、参加を呼びかけた。地域の方も関心を示して下さい。</p> <p>また、同じ方に2年続けて授業をしてもらう等、昨年できたつながりを大切にしながら実践を深めることができた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>今回行ったパラバドミントンの体験会は、全国的な組織である日本障がい者バドミントン連盟と連絡を取り、実現した。ちょうどコロナも第2波からやや落ち着いていた頃で、来ていただけたが、今後コロナ禍の中でどう開催していくか考えていかなければならないと感じる。</p> <p>2年間続けてきて、児童・生徒がパラリンピックへの意識が変化したと考えているが、今夏のパラリンピックに向けてさらにどのような学習をしていけばよいかしっかりと考えたい。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>今までの体験を基に、パラリンピックを地域の方等に紹介する活動を考え、今夏のパラリンピックに向けて準備を進めたい。</p> <p>パラリンピックを実際にテレビで観戦し、応援したい。</p> <p>11月の人権教育月間は、実際にパラリンピックに出場した方やサポートした方のお話をお聞きし、パラリンピック学習のまとめとしたい。</p> <p>来年度10月の文化祭、2月の学習発表会等で、パラリンピック学習のまとめを発表する機会をもちたい。</p>